

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日				
平成15年度	事業コード	32120	電話	042-769-8373
担当部課名	土木部	土木計画	課	道路計画 班
事務事業名	道路交通量調査			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	質の高い都市基盤の整備を進めます	事業開始年度
基本施策名	第1節	骨格幹線道路網の整備	63以前年度
施策名	第2施策	市内幹線道路の整備	

2 実施根拠及び関連法令等

都市計画法、道路法

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

投資的経費

5 事務事業の分類

市単独事業

6 受益者負担

なし

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
現況道路の断面交通量や旅行速度等の調査により、道路の利用実態や交通混雑区間等を把握する。また、過去の交通量調査結果との対比から市内交通の変動の分析、交通流動の分析を行い、道路の整備効果等を把握する基礎資料とし、今後の交通対策や道路計画を進める。	市内の幹線道路(都市計画道路・地区集散道路)
	対象数 都市計画道路:51 地区集散道路:147
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
平成14年度相模原市道路交通量調査業務委託 決算額 9,450,000 円 予算額 11,000,000 円 委託内容 一般交通量調査:定点19箇所、新点21箇所 旅行速度調査:13区間 交通量変動分析 交通量流動分析	
(4)個別計画の概要	概要
計画名	
計画年次	年度～年度

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

成果指標	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				12	13	14	15	16
		交通現況を把握し、道路整備計画や交通計画の基礎資料となる事業であり、成果指標の設定はなじまない。						
活動指標	道路交通量調査箇所数(箇所)	道路交通量調査箇所数(累計)	道路交通量調査を実施した箇所数を積み上げ、調査箇所数の蓄積の度合いを把握する。	135	135	173	178	183

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位:千円〕

事業費	項目	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
	決算(予算)額	1,260	1,313	9,450	1,150	9,500
	人員・時間数	47	47	47	47	47
	人件費	190	190	190	190	190
	その他経費					
	合計	1,450	1,503	9,640	1,340	9,690
	特定財源					
	対象数	196	196	198	198	198
	対象の単位あたり経費	7.4	7.7	48.7	6.8	48.9

10 個別評価

(1)達成度 評価 A ▼	A : 達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B : 一部達成していない		・活動指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C : 達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	目的である骨格幹線道路網の形成に向け、道路の計画や整備を進める上で必要不可欠な調査である。
(2)必要性 評価 A ▼	A : 適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B : 一部適応していない		<input type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C : 適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 道路計画を進める上で必要不可欠の調査であり、計画路線と関連する交差点等で調査を実施し、現状の交通量の最新データを得る。また、過去のデータを利用し交通の変動を把握することは道路計画における基礎的な資料となる。
(3)有効性 評価 A ▼	A : 有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B : 一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C : 有効ではない		
		説明	道路計画を進める上で必要不可欠な調査であり、目的である骨格幹線道路網の形成に向け有効である。
(4)効率性 評価 A ▼	A : 優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B : 一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C : 改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている <input type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない
		説明	通常は経常経費として調査を実施しているが、県で実施する交通センサス調査の実施年には定点観測のほか、新点観測の規模を拡大して実施しており、センサスデータと合わせより詳細なデータを得ることができ、効率である。
(5)公平性 評価 ▼	A : 公平である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B : 一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C : 公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明： 今後開通する幹線道路の交通状況の定期的な把握のため、現在19点ある定点観測数を増やすことにより、交通変動の詳細な把握を行う。旅行速度調査を今後も継続することにより、道路整備の効果を具体的に把握できる。	手段	従前、県の調査に合わせ2年及び3年ごとに定点調査を実施していたが、5年ごとの県の総合的調査実施時期にあわせることとし、事業費の削減を図る。また、毎年実施していた任意点調査は、必要最小限を独自調査することとし、事業費を削減を図る。
		削減額	千円

11 総合評価

評価	AAA ▼	他自治体の類似事業との比較
今後の進め方		
<input type="checkbox"/>	継続	
<input checked="" type="checkbox"/>	見直し	総合評価に関する説明 現状の交通量や過去のデータを利用した交通量の変動の把握など、道路計画を進める上で必要不可欠な調査であることから、今後も継続して進めなければならない事業である。 今後の調査は、県で実施する5年ごとの道路交通センサスとリンクさせた調査を実施することとし、一部事業を縮小し経済的・効率的に進めいく。また、骨格幹線的な市道整備を進める上で必然的に市が実施しなければならない調査であり、今後新規開通する
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

<ul style="list-style-type: none"> ・観測点のうち、新点については調査の必要性を検討すること ・変動要因の縮小に合わせ、全国調査との時期の整合を検討すること
